国際法学会
NEWS LETTER 第1号

JSIL
国際法学会
Japanese Society of International Law

2018年度（第121年次）研究大会の概要

浅田正彦代表理事からのご挨拶

2018年9月3日（月）から5日（水）まで札幌コンベンションセンターにて2018年度（第121年次）研究大会が実施されました。今回の研究大会は浅田正彦代表理事（京都大学教授：写真左）の下で行われる初めての研究大会です。研究大会初日午後の部「国際社会における非拘束的文書の役割」に先立つ学会各種委員会の全体会合において浅田代表理事から全委員・会員の皆様に本学会に対するより一層のご協力を求めたいと改めて呼びかけられました。

第3回小田滋判事記念レクチャー

紙幅の都合で3日間にわたる研究大会のすべてを紹介できませんが、その一端として第3回i小田滋判事記念レクチャーの概要を紹介いたします。

研究大会第２日目に「Customary International Law in Theory and Practice」と題して小田滋判事記念レクチャー（薬師寺公夫座長　（立命館大学教授））が実施されました。

国際法委員会が、国際慣習法に関する報告書（Conclusion on identification of customary international law）を公表した直後であったことから、多数の出席者から多数の質疑が出され有意義な意見交換が行われました。

2018年度（第121年次）研究大会の概要

第1報告者はGeorge Nolte先生

第１報告者は、Georg Nolte先生（国際法委員会）でした。報告テーマは、「How to identify customary international law? ? On the outcome of the work of the International Law Commission」でした。

第2報告者は阿部達也先生

第2報告者は、阿部達也先生（青山学院大学）でした。報告テーマは、「ICJ's Practice in Determining the Existence of Customary International Law」でした。

2018年度（第121年次）研究大会の概要

第3報告者は竹村仁美先生

第３報告者は、竹村仁美先生（一橋大学）でした。報告テーマは「Inconvenient Truths about the Identification of Customary International Law in International Criminal Law」でした。

会場は非常に盛況でした

会場は非常に盛況でした。Georg Nolte先生は、総会後の懇親会にもご出席され、ドイツ国際法学会を代表して挨拶を述べられ国際交流の重要性を説かれました。多くの学会会員が、Georg Nolte先生をはじめ他の会員との友誼を深める貴重な機会となったことは学会執行部としては望外の喜びです。

近畿地方に記録的な被害をもたらした台風21号は奇跡的に研究大会の実施に影響をもたらしませんでした。9月6日早朝に発生した北海道胆振東部地震により北海道で延泊した会員もおられると思います。一刻も早い復興復旧を願っております。

国際法学会
NEWS LETTER 第1号

第6回小田滋賞懸賞論文の募集など

第6回小田滋賞懸賞論文の募集

国際法学会は、国際法、国際私法、国際政治・外交史の分野における研究を普及し、将来を担う若手研究者の育成を促進するために、「小田滋賞」を設け優秀な論文を顕彰しております。ただいま第6回受賞候補論文を募集しています。応募資格は、日本国内の大学、大学院博士前期課程・法科大学院に在籍する学生、司法修習生等です。提出期限は、2019年1月31日（木）です。詳しくは学会ホームページをご覧ください。写真は、2018年6月24日に開催された第5回小田滋賞授賞式のものです。

次回研究大会のお知らせ

2019 年9 月2 日(月)・3 日(火)・4 日(水)、静岡県コンベンションアーツセンター・グランシップ（http://www.granship.or.jp/）において開催予定です。

学会ホームページにおいて公募報告及びパネル応募要領などをお知らせいたします。公募要領は『国際法外交雑誌』に掲載予定です。皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

なお、会員情報の変更等は学協会サポートセンター（scs@gakkyoukai.jp）に御連絡ください。

一般財団法人
国際法学会
学会ホームページ　http://www.jsil.jp/
MAIL：jsil_member@jsil.jp
発信：国際法学会会員委員会